

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	健康で元気に暮らせる環境づくり		課(室)名	保健対策課
	施策	医療体制の充実		電話番号	087-839-2860
	基本事業	地域医療体制の充実		事業実施主体	市
	事務事業	医療安全推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	医療における安全の確保や信頼の確保に加え、医療の質の向上を図るため、現在の医療相談窓口を医療安全支援センターとして制度化するとともに、センターの運営方針や医療安全推進方を検討する「医療安全推進会議」を設置し、医療の安全確保に取り組む。		
30年度概要	高松市医療安全推進会議の開催 患者、市民からの医療に関する苦情や相談への対応 医療安全の確保に関する事例の収集分析、情報提供 など		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）


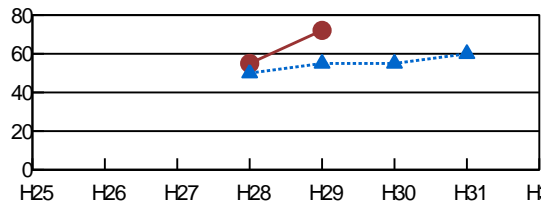
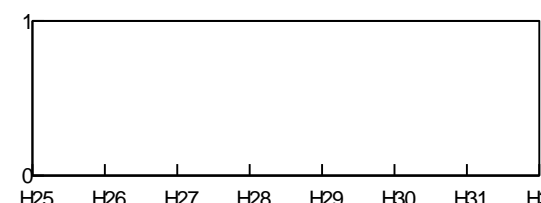
【事業の目的】

対象（何を）	医療を受ける市民
意図（どのような状態にしたいか）	市民の医療への安全の意識を高める。 医療機関が法令を遵守した良質な医療を提供できるようにする。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
医療相談受付件数	件		86	273	250	130

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標	相談者の納得度「納得した」の割合	%	目標値		50	55	55	60
			実績値		55	72.1		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 平成28年度実績値を29年度目標値とし、実績は70%を超えることができた。また「やや納得した」との合算は94%であった。 	(目標達成度)						(達成度) 131.1% 35点
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)	(目標達成度)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	28,805	30,351	31,257	28,554
（事業費）	[千円]	400	1,302	3,185	482
（職員人件費）	[千円]	28,405	29,049	28,072	28,072

【評価】

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	----------	---------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

昨年度は一昨年度と比較して、相談件数が3倍超えとなった。医療相談窓口の認知度が増え、今後も様々な医療相談が寄せられると思われる。相談員のスキルアップの向上やストレス負荷も大きい仕事のため、課内での協力体制もより一層重要となる。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

事業継続に当たっては、これまで担当職員が医療機関の相談窓口等に相談しづらく、相談しても解決しなかった事例もあったことから、今後とも様々なケースに対応できるよう、引き続き研修に参加するなど、担当職員の質の向上に努める。

平成30年度(29年度決算分)高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	健康で元気に暮らせる環境づくり		課(室)名	地域医療対策室
	施策	医療体制の充実		電話番号	087-839-3805
	基本事業	地域医療体制の充実		事業実施主体	市
	事務事業	看護師養成所運営補助事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	看護師及び准看護師の養成所(高松市医師会看護専門学校、木田地区医師会附属准看護学院)の運営費の一部を助成することにより、医療人材の確保を図る。		
30年度概要	看護師及び准看護師の養成所(高松市医師会看護専門学校、木田地区医師会附属准看護学院)の運営費の一部を助成することにより、医療人材の確保を図る。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業(法律による実施義務無)

【事業の目的】

対象(何を)	看護師及び准看護師の志望者
意図(どのような状態にしたいか)	看護師等の資格取得を促進し、新たな医療人材の確保を図る。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
看護師等養成所助成件数	件		2	2	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	養成所卒業生の資格取得率	%	目標値		100	100	100	100
			実績値		100	99		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 平成29年度において、養成所卒業生のうち看護師等の資格取得率は99%で、目標値はほぼ達成できた。 (目標達成度)							(達成度) 99.0% 34点
	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
			目標値					
			実績値					
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(予算)
トータルコスト	[千円]	4,670	4,705	4,510	5,072
(事業費)	[千円]	3,135	3,135	2,993	3,555
(職員人件費)	[千円]	1,535	1,570	1,517	1,517

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)			
看護師及び准看護師の養成所(高松市医師会看護専門学校、木田地区医師会附属准看護学院)の運営費の一部を助成することにより、医療人材の確保を図った。 事業の重要性は変わらないものの、対象団体の経営状況を把握する必要がある。			
【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)			
今後も新しい医療人材を養成し、その確保に努める必要があるが、対象団体の経営状況に見合った助成の在り方について検討する。			

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	健康で元気に暮らせる環境づくり		課(室)名	地域医療対策室
	施策	医療体制の充実		電話番号	087-839-3805
	基本事業	地域医療体制の充実		事業実施主体	市
	事務事業	産科医等確保支援事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	医療施設が産科医と助産師に支給する分娩手当に対して助成を行うことにより、処遇改善を通して産科医等の確保を図る。			
30年度概要	医療施設が産科医と助産師に支給する分娩手当に対して助成を行うことにより、処遇改善を通して産科医等の確保を図る。			
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）	

【事業の目的】

対象（何を）	産科医・助産師
意図（どのような状態にしたいか）	産科医等の処遇改善のため、分娩手当を支給する施設に対して助成を行うことにより、産科医等の医療人材の確保を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
助成対象分娩件数	件		1,107	1,005	1,350	1,350

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標	該当施設における産科医及び助産師の従事人数	人	目標値		46	46	46	46
			実績値		46	45		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 該当施設における産科医及び助産師の確保については、昨年度までの水準をほぼ維持できた。 (目標達成度)							(達成度) 97.8%
								34点
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	8,881	8,462	7,506	9,517
（事業費）	[円]	7,346	6,892	5,989	8,000
（職員人件費）	[円]	1,535	1,570	1,517	1,517

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

医療施設が産科医と助産師に支給する分娩手当に対し助成を行うことにより、処遇改善を通して産科医等の確保を図った。なお、産科医等の高齢化などにより、人材不足は深刻であり、根本的な人材確保策を講じる必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

県の補助要綱に基づき、引き続き助成を行うものであるが、根本的な人材確保策について、国・県への要望を検討する。

平成 30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	健康で元気に暮らせる環境づくり		課(室)名	地域医療対策室
	施策	医療体制の充実		電話番号	087-839-3805
	基本事業	地域医療体制の充実		事業実施主体	市
	事務事業	災害時医療救護事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	災害時の医療救護班の派遣体制を確保するため、高松市内3医師会連合会及び高松市歯科医師会の医療救護活動に対して助成している。また、災害時に応急救護所で使う医薬品等を備蓄している。		
概要	災害時の医療救護班や連携体制の確保を目的とした活動を行っている、高松市内3医師会連合会及び高松市歯科医師会に対して30年度助成する。また、災害時に応急救護所で使う医薬品等を備蓄している。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）


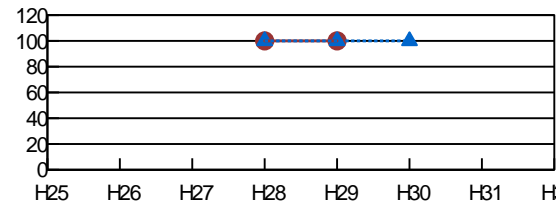

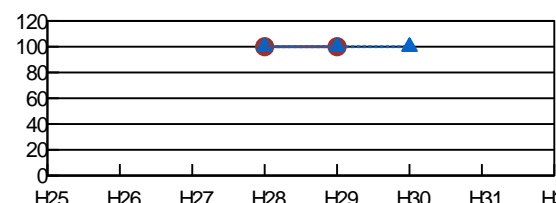
【事業の目的】

対象（何を）	災害時の医療救護体制
意図（どのような状態にしたいか）	災害時の医療救護班や連携体制の確保を高松市内3医師会連合会に委託するとともに、災害時に応急救護所で使う薬品等を備蓄することにより、災害時の医療救護体制を確保する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
災害時備蓄用薬品等更新品目数	種類		25	28	38	38
医療救護活動助成件数	件		2	2	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標	備蓄医薬品のうち有効期限内である医薬品の割合	%	目標値		100	100	100	100
			実績値		100	100		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 災害時の備蓄医薬品については、計画的に更新を行うことにより、全て有効期限内で適切に管理することができている。 （目標達成度） 			（達成度） 100.0% 35点				
	成果指標名（どのような成果が得られたか） 医療救護活動の実施率 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 医療救護活動の実施率については、いずれの補助対象事業者も計画どおり実施することができた。 （目標達成度） 			（達成度） 100.0% 35点				

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27年度（決算）	平成 28年度（決算）	平成 29年度（決算）	平成 30年度（予算）
トータルコスト	[円]	2,258	2,084	2,422	3,223
（事業費）	[円]	723	514	905	1,706
（職員人件費）	[円]	1,535	1,570	1,517	1,517

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

災害時の医療救護班や連携体制の確保を目的として活動を行っている高松市内3医師会連合会及び高松市歯科医師会の医療救護活動に対して助成を行った。
 また、災害時に応急救護所で使う医薬品等を備蓄し、随時更新を行い、適切な管理を行っている。
 なお、医療救護活動や医薬品の備蓄について、具体的な運用方法を検討する必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

今後とも医療救護活動や医薬品の備蓄管理を適切に行うとともに、災害の経験を踏まえた医療救護体制の在り方について関係団体と協議を行い、体制の再構築について検討する。